

例えば、「創立〇周年記念プロジェクト」に「次世代モデル開発プロジェクト」。サラリーマンをやっているといや応なしに「プロジェクト」というものに巻き込まれる。うっとうしいったら、ありゃしない。

しかも、通常業務をこなしながらプロジェクトの仕事もしなければならぬケースも多く、「プロジェクト＝厄介な仕事」と思っている人も少なくないはず。しかし、捉え方、取り組み方次第で、楽しくなったりスムーズになったりするという。「ホントにそうならいいだろうな」と思いつつ、この「平凡な仕事をすごいプロジェクトに変える教科書」を読んでみた。

まず著者は、プロジェクトとは与えられるものではな

## お疲れ人に捧ぐ ヒット本 取扱説明書

平凡な仕事を  
すごい  
プロジェクトに  
変える教科書

小さくスタートして大きく変化させる  
プロジェクトの真髄とは  
どうもいいことで時間を待たせるな  
プロジェクトの成功と失敗の秘訣  
4人だけの仕事本を、あなたに送ります

安東邦彦 / 著  
WAVE出  
版・1470円

！  
起業家の視点で眺め  
れば面倒な仕事も：

く、「目の前に山積みになった仕事、数値目標、上司や部下の機嫌と顔色を見ながら働く現状」を変えるための方法なのだと言説する。そもそも「やらされてる感」も間違いなんだという。

とはいえ、サラリーマンなんだから「やらされてる」と感じるのも仕方ない。ただ、それも工夫次第。著者いわく、プロジェクトをうまく進めるためには「起業家」「職人」「マネジャー」といった3つの視点を持つことが不可欠で、我々は「職人」になり過ぎているから、「やらされてる感」を感じ過ぎるのだと指摘する。

じゃ、何になればいい？  
必要なのは「常に未来へ視線を向け、小さな出来事の中から大きな機会を見つける。新しいこと、やったことがないことに挑戦する」という起業家の視点。夢と理想を追いかけ過ぎるのも問題だが、これらが欠けてもプロジェクトはうまく回らないらしい。覚えておいて損はなさそうだ。